**第160回ペン川柳「星」**

**世話人：平尾富男（酔深）**

**日時＝平成２９年８月２５日（金）稲田屋新宿西口店**

**参加者＝（８名→１６句）大野昰（だし）、平尾富男（醉深）、稲宮健一（井波）、山縣正靖（安兵衛）、富田佳瑞（鬼瓦）、西川武彦（酔雅）、細谷博（損得）、松谷隆（零門）**

**欠席投句者＝（５名­→１０句）岩崎洋一郎（不言）、八木信男（明迷）、三春（火酒）、浜田道雄（我々好）、安藤晃二（晃二）**

**七夕様の一ヶ月遅れですが、８月はお題「星」で勉強しました；（\*印は今月の互選句、**

**\*は最優秀句）**

**１．星影が若い二人のキスを呼ぶ　（だし）　←　（２票）**普段の言動からは想像も

　できないロマンチストの作者は６０年以上も昔の青春時代をふと思い出して詠みました。最近の作者は歳に似合わず偶に奥様（？）とキスをされるそうです。

**\*２．この犯人（ホシ）も希望の星の成れの果て　（損得）　←　（３票）**警察に追わ

れる人をホシと呼ぶようになったのはいつからでしょうか。人は誰しも若い頃には

希望の星だったものですが……。この句の作者も希望の星だった時期があるのです。

**３．星屑がいつも見えてる黄斑病　（不言）　←　（１票）**視界がゆがんだり欠損して見える病気のことを正しくは**「黄斑変性症」**と言います。最近この病状に罹る人が増えているそうです（作者も）。アメリカで失明率トップの目の病気。最近は日本においても着実に患者数が増えています。これは、生活環境や食生活の欧米化などが指摘されていますが、なかでも”活性酸素”が大きな原因とされています。

**４．目の上のたんこぶ叩けば目から星　（火酒）　←　（０票）**この句に一票も入らなかったのは何かの間違いでしょうか？　今月の出席撰者は全員がこの句の作者から見て目の上のたんこぶだと自負（？）しているからでしょうか？

**５．トランプはロシアの星か流れ星　（安兵衛）　←　（２票）**作者特有の鋭い時事川柳。米国大統領に関する最近のロシア疑惑を詠んでみました。

**６．京都なる星追う刑事ギターの音　（晃二）　←　（１票）**作者の解説によると、相当古いＴＶ番組**「京都サスペンスシリーズ」**を詠んだとか。作者だけが楽しんでいます。一票入ったのですからこの句の理解者は作者以外にも一人は居たのです！

**７．シルバばっか目から星出る負担増　（井波）　←　（０票）**上五の**「シルバばっか」**は**「シルバー（老人）ばかり」**のこと。下五の**「負担増」**を誤って**「負荷増」**

としてしまったので票が入りませんでした。

**８．ご隠居の脛に傷あり星の数　（火酒）　←　（２票）**社会的地位から引退したお歴々は、その地位に上りつくために色々と苦労してきました。それがそのまま数多の傷となって脛に残りました。作者未だ隠居はしていませんが、その脛を先日こっそり覗いたらそれなりの数の傷が……。

**９．星条旗なびくさまなし並の国　（鬼瓦）　←　（１票）**元句は**上五と下五が逆**になっていました。アメリカ合衆国のことを詠ったのですから、上五を**並の国**としては意味が分かりにくくなります。

**\*１０．スターには成れず夜空の星の屑　（酔深）　←　（３票）**生前に華々しい活躍（スター）が出来なかったので、あの世に召されてからは数多ある星屑の一つとして夜空に埋もれてしまうという自らの人生を予見した作者お得意の**自虐句**です。

**\*１１．甲子園未来の星がキラキラと　（零門）　←　（２票）**元句の下五は**「次々と」**でしたが添削されました。今年も甲子園球場で高校球児たちが素晴らしい活躍をしました。その内の何人かはプロ野球の**スター**となって輝くことでしょう。

**１２．星勘定しては関取休場し　（我々好）　←　（４票）**大相撲を詠みました。最近の関取は１５日間を休みなく勤めることに誇りを持っていないかのようです。次場所で番付を落とさなければ休場して身体を休ませるという傾向がみられるのは残念至極です。作者もペン川柳の新宿場所を休場して投句による参加でした。

**１３．星空にタンゴ踊りつプロポーズ　（だし）　←　（０票）**プロポーズ最新事情は、東京タワーの目の前にある創作イタリアンレストラン「**TANGO**」でのプロポーズなのだそうです。ブエノスアイレスをイメージして作られた店内にはどこかアジアな風を感じることもできます**（店の宣伝？）**。

**１４．五つ星数に圧されてくつろげず　（酔雅）　←　（２票）**最高級のホテルには五つの星が付与されます。そんな高級五つ星ホテルに泊まったら貧乏人根性のペン川柳子は落ち着かなくてくつろげないんです。心配無用です、そんなホテルにはもう泊まれませんから！

**１５．禁じ手に星が飛び散る平手打ち　（酔深）　←　（０票）**元句の上五は**「網膜に」**でしたが、これでは可笑しみに欠けます。添削のようにすれば**「禁じ手を女性に使ったら平手打ちを喰らった」**となり、面白い川柳に生まれ変わります。どんな禁じ手かだって？　それは教えません（平手打ちの後は甘い抱擁だったからです）。

**１６．人は皆天に上って星になる　（安兵衛）　←　（１票）**仏教では、**「悪人も善人も皆等しく救われる」**のです。でも、我がクラブには「天国に逝ってまで今の女房と一緒になるなんて御免だ」という御仁の多い事（この句の作者は別です）！

**１７．流星の消えるが如く去りし恋　（不言）　←　（２票）**愛する女房と一緒に仲良く長生きする作者にしてこの川柳です。愛と恋とは違うんですよね。残念ながらこの場合の恋は半世紀以上も昔に消え去ってしまいました。でも、未だに思い出してはほくそ笑んでいるのです。

**１８．ひとっぷろ浴びてにんまり星勘定　（鬼瓦）　←　（０票）**元句の中七は**「浴びて勝ち越し」**でした。「勝ち越しの星勘定」ですから**「にんまり」**するのです。大相撲を詠んだ句です（他意はありません！）。

**１９．サンマ焼きおろし醤油で星三つ　（井波）　←　（２票）**元句の下五は「五つ星」でしたが、**料理の最高点は星三つ**ですね。五つ星はホテルのランキングです。

**\*２０．白星を重ねて戻る肌のつや　（酔雅）　←　（３票）**品の良い（？）色気を醸し出す大相撲の句です。年増の女性が関取衆の裸の肌のつやに**「ぞっこん」**なのは理解できますね。作者は男ですが、最近は女性より男性が……（女性にモテなくなったので）！　特に色白の男性は要注意！

**\*２１．党の星失言つづきで任追われ　（我々好）　←　（５票）**自宅休養（謹慎）中で欠席投句でしたが、川柳は絶好調の我々好さんです。この句の**星**は作者の大好きな**稲田朋美衆議院議員**（早稲田大学法学部出身）のことです。作者は当クラブの星ですからお身体完全復調を祈念して止みません。今月の最優秀句に選ばれました。

**２２．四つ星三人揃って和議を説く　（晃二）　←　（１票）**米国の**陸・海・空の三軍の長**は**星四**つを胸に掲げています。この句は、先の米韓合同演習の際に、米国の三軍司令長官が揃い踏みで北を威圧したことを詠みました。日本の三軍統合は、陸・海・空自衛隊の統合機関としての統合幕僚会議を指すのでしょうか。

**２３．満天の星に魅かれて夜道行く　（零門）　←　（２票）**夜道を行くのは作者一人ではありません。必ずしも満天の星が輝いていなくてもよいのです。夜も昼も奥様がご一緒なのですから。

**２４．夢破れ俺の涙か星が降る　（損得）　←　（１票）**作者が「希望の星」と自認していた若き日々を思い出しています。どんな夢を見ていたのでしょうか？　知りたいものです。涙は今も時折頬を伝うようです。

**―　今後の日程：**

**\*９月２２日（金）、\*１０月２６日～２８日（土）金沢合宿、\*１１月２４日（金）、**

**１２月２２日（金）**